

写真が伝える田主丸の 伝統行事・虫追い祭り

「田主丸・虫追い祭り写真資料」

田主丸町に100年以上続く行徳写真館が、昭和戦後期に田主丸・虫追い祭りを撮影した写真47枚とネガシート5枚（24コマ）です。写真を見比べると、衣装や家並みが異なることから、複数年にわたって撮影されたものであることが分かります。

《虫追い祭りとは》

稲作の収穫前、松明を灯して鐘太鼓を打ち鳴らし、害虫を退治して豊作を祈願する行事です。田主丸地方では江戸時代から行われ、約300年の歴史があります。



昼の部。商店街で、源平合戦を再現した武者2体の合戦が繰り広げられる

《田主丸・虫追い祭り》

武者人形手塚太郎光盛と斎藤別当実盛、竹と藁で作った馬が登場するのが特徴で、昼と夜の部があります。

昼の部（上段写真）では、一行が鉦や太鼓の囃子に合わせて町を練り歩き、武者人形を一体10人ほどで躍らせながら合戦を行います。

夜の部（下段写真）では、舞台を巨瀬川に移し、武者人形を競り合わせる合戦で祭りはクライマックスを迎えます。馬も30数名の若者に担がれて川に入ります。若者たちと、人形に近づこうとする馬が立てる水しぶきが、祭りの臨場感を伝えます。本資料群は行事の一連の流れを収めており、記録写真として貴重です。



夜の部。道路に詰めかけた観客に見守られ、合戦が続けられる武者人形は高さ3m、馬は高さ3m・長さ5mに及ぶ

今も残る河童伝説 川太郎の手

「川太郎の手」

本資料は、草野町に伝来した「川太郎の手」とされる手骨標本です。これは、いわゆる「河童の手」と伝承されているもので、全国に多く残る河童伝説に関わる資料です。縦6.7cm、横4.5cmで、箱の底には「川太郎之右手 此ヲ処持する人愛敬多 呪力ヲ得る 天保四年二月」と書かれており、河童の手は愛敬と呪力をもたらすとされています。

なお、この「川太郎の手」は鑑定の結果、カワウソの手であることが判明しています。



伝説の河童 川太郎の手

幼少より馬を描いた坂本繁二郎 晩年に制作した版画にも

「坂本繁二郎版画「馬」」

久留米出身の近代洋画家・坂本繁二郎（1882〜1969）は、生涯にわたって、多くの油彩画、水彩画を描くとともに、版画の制作も行いました。本作は繁二郎の晩年、昭和42年（1967）に加藤版画より発行されたものです。

繁二郎は、子供の時から馬が好きで、画箋紙に馬の絵を描いていたと語っています。

昭和6年（1931）に八女に転居する頃から、馬の絵に没頭していき、九州各地の放牧場や馬市へ出かけ、気に入る馬を探してスケッチしました。



坂本繁二郎版画「馬」（部分）